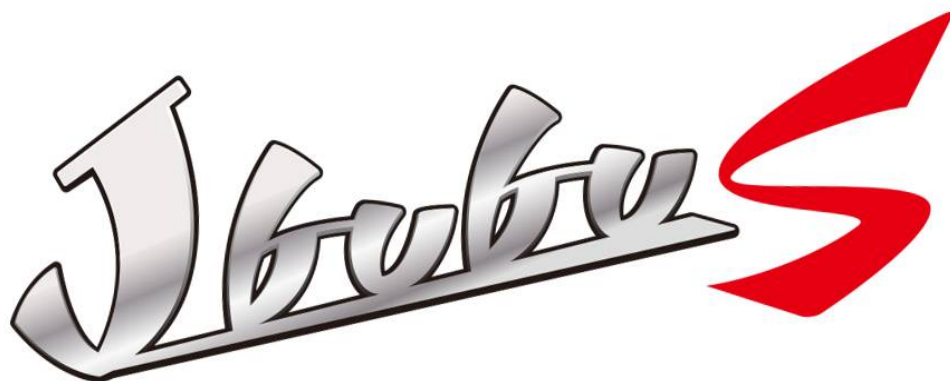




owner's manual



MOTIVE POWER

お客様へ

この度は PGO SCOOTER J-BUBU125 をお買上げ頂きまして誠に有難う御座います。

商品に添付されている取扱説明書は英文で作られております。

従って、簡単では御座いますが、機能及び取扱い方法について説明している箇所を日本語にてご理解頂ける様、本書を作成いたしました。

乗車される前に必ず本書をお読み頂けます様お願い致します。

本書内で J-BUBU125 を機種記号 J3-125BAE 及び J3-125BIE と、
4stroke エンジンを(4T)として標記されます。

不具合等でお困りの場合は、お買い求めの販売店様へご相談ください。

PGO 日本代理店

**NOVEL
FORCE**

内 容

安全に運転する為の注意点	2	エンジンの慣らし運転・駐車	21
各部名称	3	ラゲッジボックス	22
車体識別	4	ブレーキの点検	23
メインキー	5	エンジンオイル量点検	24
キー操作方法	6	エアクリナー	24
シャッターキー操作方法	7	タイヤ	25
ハンドルスイッチ操作方法	8	スロットルグリップ・灯火	26
盗難防止スイッチ	9	スイッチ・燃料	26
アイドリングスタート・ストップシステム	10	定期点検・定期点検スケジュール . 27・28	
スピードメーターインジメーター	11	エキゾーストコントロールシステムのメンテナンス	29
液晶画面操作方法	12・13	エアクリナー・プラグ点検	30
運行前点検	14	ギヤオイル交換フロントブレーキ点検	31・32
ブレーキ	15	サスペンション点検	32
エンジンオイル	16	ヒューズ・バッテリー	33
フューエルタンク・触媒	17	主要諸元表	34
乗車する際の注意事項	18	定期点検記録簿	35
後席乗員用格納ステップ	19	保証書	36~37
暖機運転	19	保障登録書	38
スクーターに乗るにあたって	20		
ブレーキ操作	20		

安全に運転する為の注意点

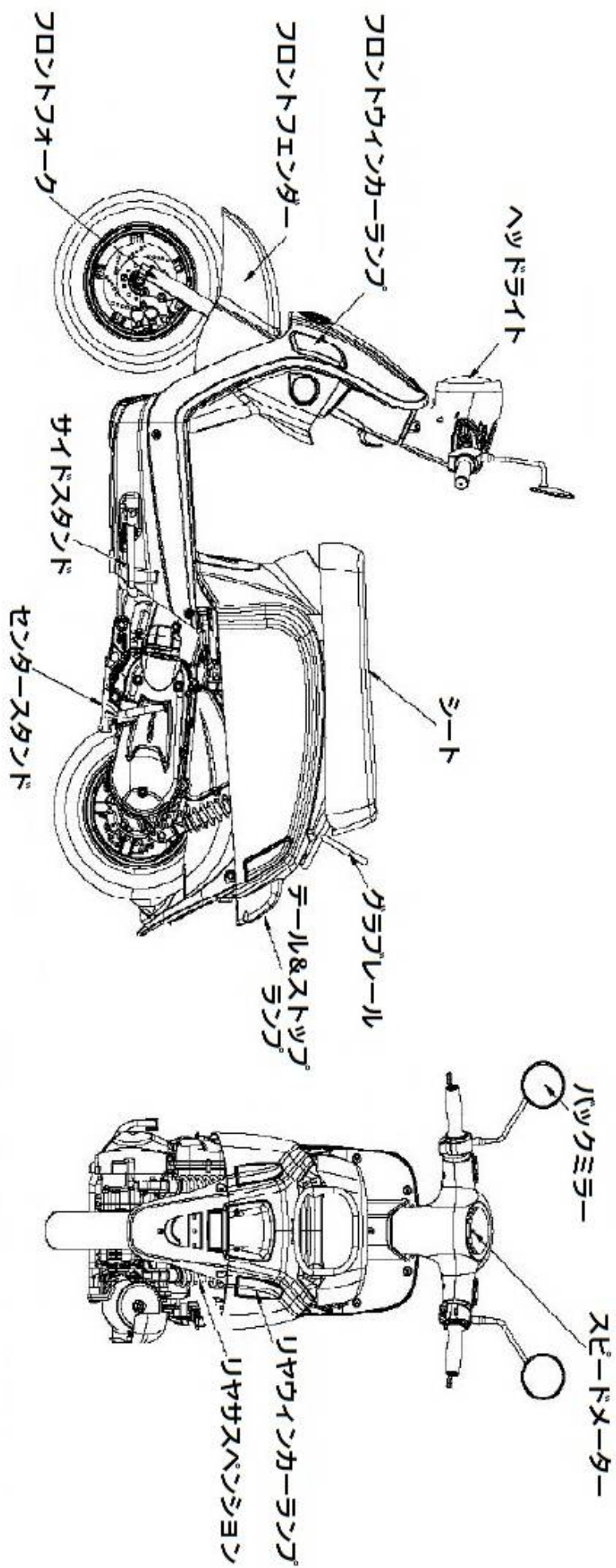
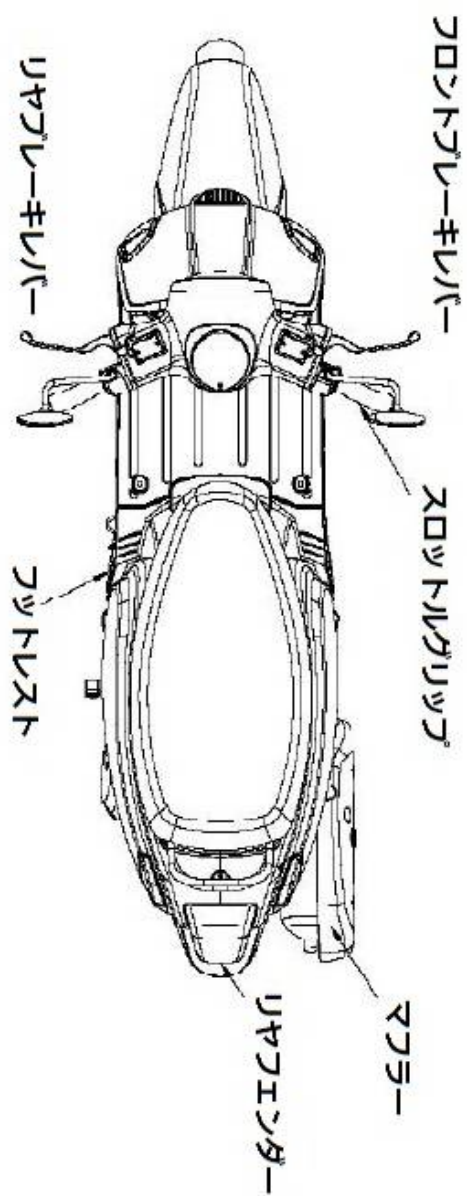
▲ 警告

運転時は十分な余裕を持ち、以下の用件に留意する必要があることを予め了解下さい。

安全運転のために

- 1 運行前点検は必ず実行し、修理が必要であれば修理をしてから運行してください。
- 2 多くの事故は経験の少ないライダーに関係します、慎重に運転しましょう。
- 3 乗車時は運転操作を妨げない服装で、明るい色の物を着用しましょう。他の運転者の死角に入らないようにしましょう。
- 4 交通法規を遵守してください。過度な速度は事故につながります、速度は控えめにしましょう。
- 5 他の交通に迷惑を掛けない様に気を付けましょう、交差点や駐車場の出入り口等は特に注意が必要です。
- 6 乗車時はハンドルをしっかり持ち、足はステップボードに乗せ、正しい姿勢で乗りましょう、後席に乗車させる人はステップに足を乗せ保持してください。
- 7 エンジン을掛けたまま車両から離れないようにしてください。
- 8 悪路を走行する時はスピードを落とし、強い衝撃を受けないよう操作してください。

各部名称



車台番号

車体を識別する為にフレームナンバーとエンジンナンバーがあります。

1. ステップフロア全面のインナーカバーにフレームナンバーカバーがあり、そのカバーを外すとフレームナンバーが打刻されています。



2. エンジンナンバーはベルトケース後部に打刻されています。



フレームナンバー及びエンジンナンバーは部品の注文時に必要なだけでなく、盗難等に遭われた時に車体識別の為に必要です、メモなどにして保管されることをお勧めいたします。

メインキー

キー操作によりシートや給油口の開錠、ハンドルロックの施錠・開錠とメインスイッチの ON-OFF が出来ます。



キーポジションマークについて

1.  キーON の位置です、鍵は抜けません。
2.  キーOFF の位置です、鍵を抜くことが出来ます。
3.  ハンドルロックの位置です、鍵を抜くことが出来ます。
4.  給油口オープンの位置です、鍵は抜けません。
5.  シートオープンの位置です。

キー操作方法

キーOFF の位置

キーOFF の位置からは4通りの操作が出来ます。

- ① OFF の位置からそのまま右に回すとメインスイッチを ON 出来ます。
- ② OFF の位置からそのまま左に回すとシートロックが解除出来ます。
- ③ ハンドルが左に切った状態で OFF の位置から押し込んで左に回すとハンドルロックを掛けられます、引っかかって回らない場合は少しハンドルを戻してから左に回して下さい。
- ④ OFF の位置から押し込んで右に回すと ON の位置よりも右に移行します。一旦止まる位置から更に右にひねると給油口を開けられます。

キーON の位置

キーON の位置からは2通りの操作が出来ます。

- ① 右にひねるとシートロックが解除出来ます。
- ② 左に回すとメインスイッチを OFF に出来ます。

ハンドルロックの位置

ハンドルロックの位置からは3通りの操作が出来ます。

- ① ハンドルロックの位置からそのまま左にひねるとシートロックが解除出来ます。
- ② ハンドルロックの位置から押し込んで右に回すとハンドルロックが解除されます、回す時に引っ掛かり回せない場合はハンドルを少し戻してから右に回して下さい。
- ③ ハンドルロックの位置から押し込んで右に回すと ON の位置よりも右に移行します。一旦止まる位置から更に右にひねると給油口を開けられます。

給油口開ける操作の後

給油口を開けた後は押し込んで左に回すと OFF の位置又はハンドルが左に切れていればハンドルロックの位置に戻せます。

給油口の開けた蓋は元の閉じた状態より少し押し込めばロックされ閉じる事が出来ます。

シートの閉め方

シート裏面の後方に車体側のシートキャッチ金具に嵌るシートロック金具がありますので位置を確認しておいて下さい。

開けたシートを手を挟まないよう気を付けて閉めてシートロック金具がシートキャッチ金具に『カチッ』と音がしてロックされた事が確認出来る状態になるように押し込んでください。

※ラゲッジボックス内に大きな物等を入れてシートロック金具がシートキャッチ金具に届かない状態にしないで下さい。無理にシートを押し込んでロックすると開けられなくなります。

シートキャッチ部分の給油及びシートオープン用ワイヤーの調整は随時行って下さい。

シャッターキー操作方法

鍵穴のいたずら防止機能としてシャッターが装備されています。

鍵を抜いた状態で、鍵穴下側に飛び出ているアームを下の図のように下から上方向に指で押し込んで下さい。



止まるまで押し込むとシャッターは閉じた位置で保持して鍵穴を守ります。

シャッターを開けるには

キーのグリップ部分にシャッターを開ける為のキーが装備されています。

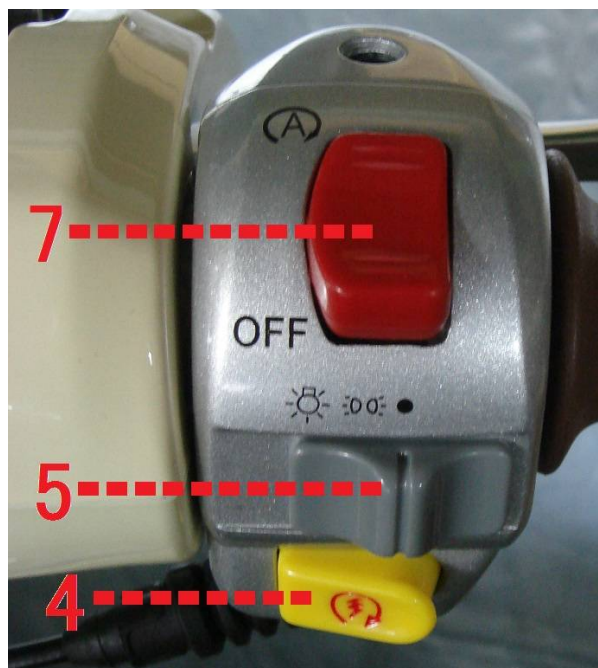


突起部分をシャッターキーホールの切欠き部分に合わせてシャッターキーホールに挿し込みます。挿し込んだ状態で右にひねるとシャッターが開きます。

※ シャッターキーナンバーは合いカギ作成時に必要になりますので控えを保存して下さい。

ハンドルスイッチ操作方法

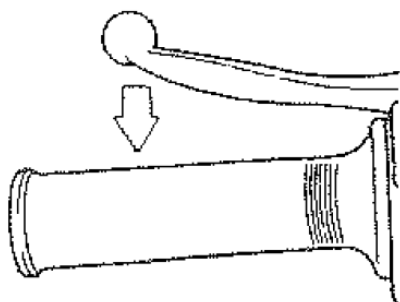
ハンドルスイッチの各名称と機能



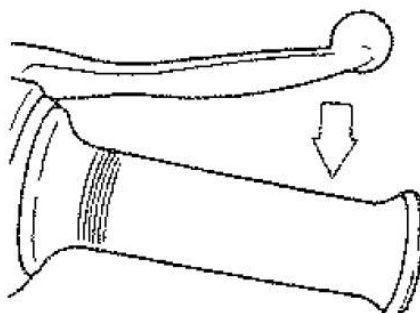
1. ハイ・ロー切り替えスイッチ 上がハイビーム状態で、下はロービームです。
2. ウィンカースイッチ、曲がる方向へスイッチをおすとウィンカー点滅、白いボタンを押す事でウィンカーをキャンセル出来ます。
3. ホーンボタン 押すとホーンが鳴ります。
4. セルスターターボタン どちらかのブレーキレバーを握りながら押すとセルスターターが回りエンジンを始動出来ます。(スロットルグリップは開けずに始動したほうが簡単に始動出来ます)
5. ヘッドライトスイッチ 日本仕様では機能しません。ヘッドライトは常時点灯します。
6. パッシングスイッチ ハイロー切り替えスイッチが下側の時に更に下側を押す事でパッシングが出来ます。
7. アイドルストップスイッチ アイドルストップを作動・停止を切り替えます。

ブレーキレバー

左ブレーキレバーはリヤブレーキです。



右ブレーキレバーフロントブレーキです。



ブレーキレバーを握るとブレーキが掛かります、ブレーキレバー握り始めには遊びが必要です。レバー先端で5～15mmあるのが適正です。

盗難防止スイッチ

シート下のメットインスペースに盗難防止スイッチが装備されています。



写真のように “-” のマークが押された状態がエンジンの掛かる状態です。
反対に、“○” のマークが押された状態ではエンジンが掛かりません。
車両から離れる場合はこのスイッチを “○” が押された状態にしてシートを閉めておくことで盗難の危険から回避出来る可能性が高まります。

アクセサリ電源



メットイン BOX 内に 12v シガーライター電源を装備しています、供給可能電流は 1 A ですが使用機器の電流量が 1 A ぎりぎりまで使用してしまうと瞬間的に 1 A を超える可能性がありますのでヒューズが切れる場合があります。

このような場合でもヒューズは消耗品の為、補償対象には含まれませんので使用機器の電流値は余裕をもって低めの電流値での使用を推奨致します。

アイドルスタート・ストップシステム

★アイドルスタート・ストップシステムが作動するには以下の条件が揃う必要があります。

- ◆ 最初の始動は通常のブレーキを握りスタートボタンを押すことで始動する事。
- ◆ エンジンを自動的に止める条件。
 - アイドルストップスイッチが **(A)** の状態になっている。
 - バッテリーの電圧が 12.3 v 以上ある。
 - 標高 1000 m 以下である。
 - エンジン温度が 70℃ 以上である。
 - 走行時に 15 km/h 以上で走行している。
 - 停止して速度がゼロになってから設定した秒数を経過している。(初期設定は 3 秒)
- ◆ 液晶画面に **(A)** マークとパワーベアーのイラストが表示されエンジンは設定した秒数を経過すると自動的に停止します。



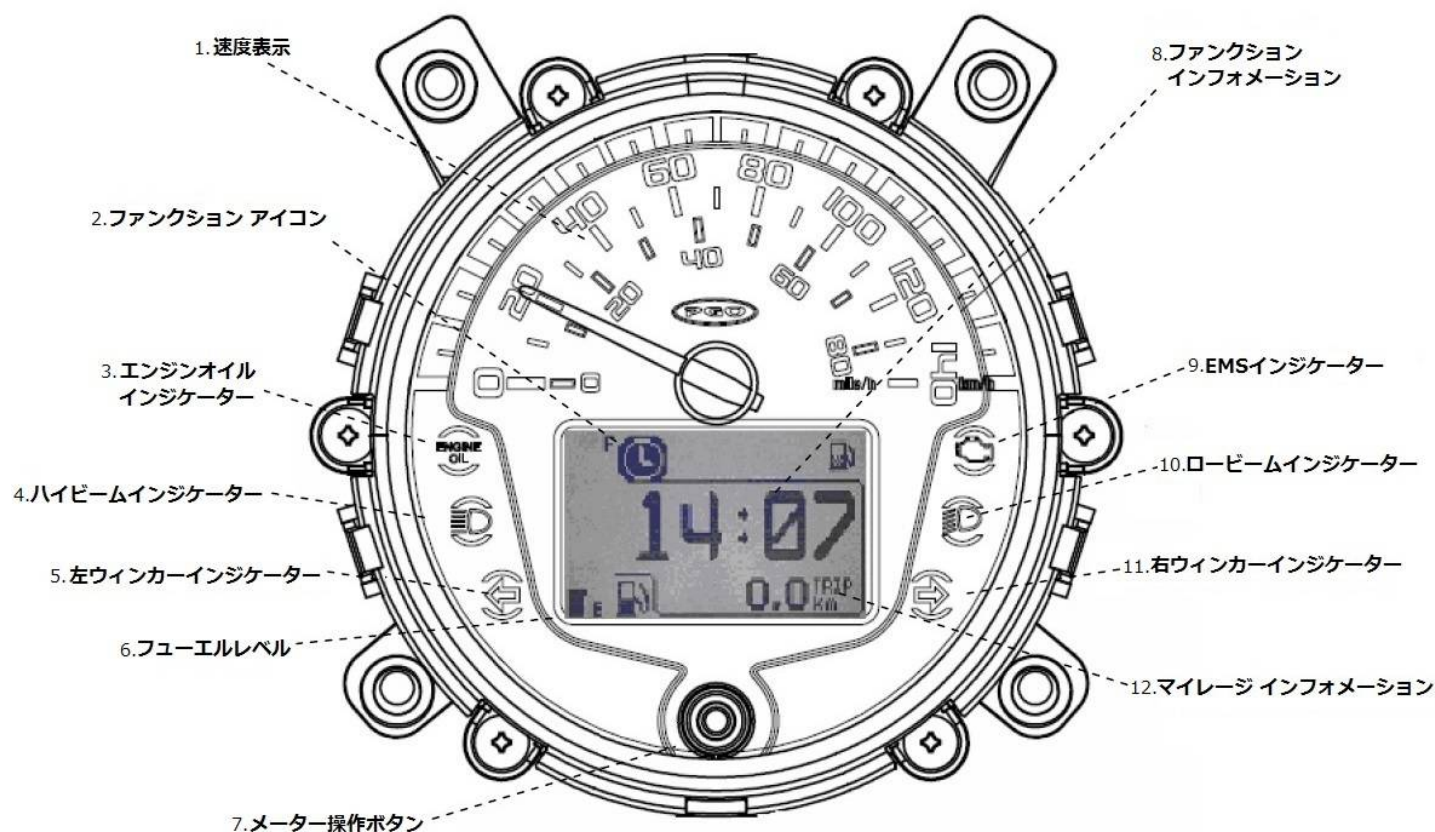
★始動条件

- ◆ ブレーキレバーが握られている状態でアクセルを少し開くとエンジンが始動します。
- ◆ 通常のブレーキを握りスタートボタンを押す方法でも始動可能です。

★始動出来ない条件

- ◆ ブレーキが握られている状態でスロットルを大きく開けてしまうと始動しません(飛び出し防止の為) 3回同じ失敗をしてしまうと4回目以降は通常の始動方法で始動する必要があります。またアイドルスタート・ストップシステムが解除されます。再度システムを稼働させるには一旦メインキースイッチをOFFにしてエンジンを止め再度メインキースイッチをONにする必要があります。
- ◆ アイドルストップスイッチがOFFの時。

スピードメーター インジケーター



1. 速度表示 外周に Km/h 内周にマイル表示があり、指針によって指し示します。
2. ファンクションアイコン 選択中のファンクションを表示します。
3. エンジンオイルインジケーター オイル交換時期になると点灯します。
4. ハイビームインジケーター ハイビームとパッシング使用時に点灯します。
5. 左ウィンカーインジケーター 左ウィンカー作動時に点滅します。
6. フューエルレベル ガソリン残量を表示します 1 目盛りになったら直ちに給油して下さい。
7. メーター操作ボタン メーター各表示操作に使用します。
8. ファンクション インフォメーション 選択中のファンクションの内容を表示
9. EMS インジケーター EMS の状態を点灯状態で表示します。
10. ロービームインジケーター ロービーム使用時に点灯します。
11. 右ウィンカーインジケーター 右ウィンカー作動時に点滅します。
12. マイレージインフォメーション 距離の表示をします。

液晶表示の基本4画面

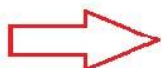
液晶画面操作方法



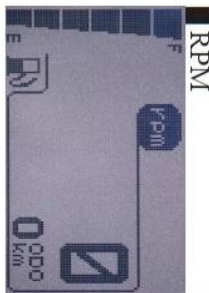
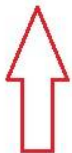
- EMS(エンジンマネジメントシステム)は電源が入れば自動で起動して常に異常や故障が無いか自己診断を行っています。
- 何らかの異常や故障を検知した場合は液晶画面に表示されます。



- ボタンを押して時計表示画面に切り替えると時刻を表示します。
- 時刻の合わせ方は次のページをご参照ください。



ボタンを押す度にこの4つの基本画面が
順次切り替わります。



- ボタンを押してrpm表示画面に切り替えるとエンジン回転数を表示します。



- ボタンを押して電圧表示画面に切り替えるとバッテリー電圧を表示します。
- バッテリー電圧が11.5Vを下回った時と、15.5Vを上回った時は警告アラームが鳴ります。すぐに使用を中止して修理を行って下さい。

常時表示されている項目



- 距離計はどのモードの画面でも常に液晶画面の右下の所に表示されます。
- 距離計のODOとTRIPの切り替えはボタンを押して全ての画面切り替えを行うことでODOとTRIPが交互に表示されます。
- TRIPモードの時にボタンを押すとTRIPメーターの距離計をリセットする事が出来ます。



- フューエルレベルゲージ(ガソリン残量計)は全ての画面で左端に表示されます。
- ガソリンの残量が少なくなりレベルゲージの表示が1目盛になると目盛が点滅して、画面右上にはコーションマークが表示される

- EMSインジケーション以外の画面でODO表示状態の時にボタンを押すと、マイレージインジケーションの表示単位をKm⇔mileで切り替える事が出来ます。

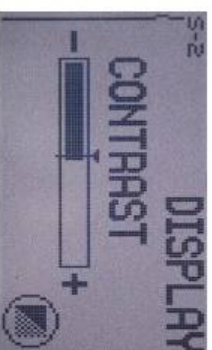


セッティング

- メインスイッチをOFFにします。
- ボタンを押したままメインスイッチをONにします。画面がセッティング画面に切り替わったらボタンを離して下さい。



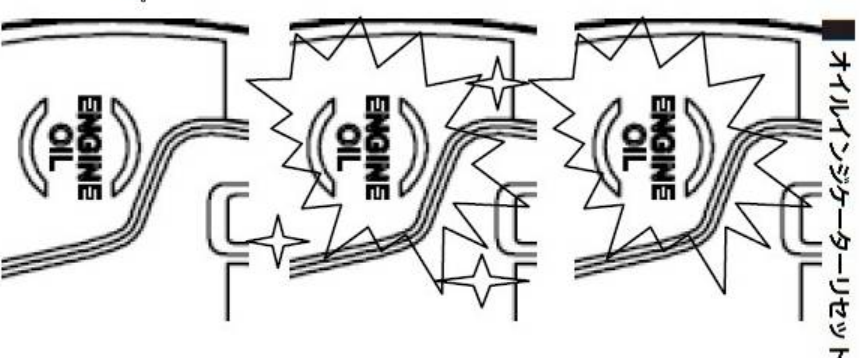
- 時刻合わせの画面に移行したら点滅している箇所をボタンを押す事で数字を変更出来ます。点滅している場所の切り替えはボタンを長押しすると切り替わります。
- 時⇒分⇒ディスプレイの順番で点滅箇所が切り替わります。



- 液晶のコントラスト調整はボタンを押すごとに濃くなり、最も濃い段階の次は最も薄い表示に戻りますので任意の所で止めて下さい。
- 任意の位置にしたらボタンを長押しでアイドルストップ設定画面に移行します。



- アイドルストップ開始までの設定時間の調整が出来ます。
 - 3〜30秒の間で設定可能です、作動させない場合はOFFも選択出来ます。
 - 初期設定は3秒です。
- 全て調整が終わったら長押しをするかボタンの操作を行わないまま待つと通常画面に移行します。



オイルインジケータリセット

- オイルインジケータの点灯はオイル交換時期を表しています、エンジンオイルを交換して下さい。

※ 新車から300km時点ではインジケータは点滅しません、300kmになったら初回のオイル交換を行って下さい。

- オイル交換が完了したらオイルインジケータを次の手順でリセットして下さい。
- ODO表示状態に切り替えてからボタンを3秒以上長押しして下さい、『点灯』から『点滅』に変わります。

- 『点滅』にインジケータが変化したら一旦ボタンを離し、今度は5秒以上長押しして下さい、インジケータが『消灯』します。



注意！

運転中に液晶画面にエラー表示が出た時は、速やかにPGO 取扱店又は、お買い求め頂いた販売店様へ点検をご依頼下さい。

運転中にメーターの操作を行う事は非常に危険です、安全な場所に停車した状態で操作して下さい。

6. 運行前点検

点検項目	点検内容	ページ
フロントブレーキ	ブレーキの効き、レバーの遊び、ブレーキ液量を点検し必要ならばリザーバータンクにフルードを追加して下さい。ブレーキフルードはFMVSS DOT 4をお使いください。	14,22,30,31
リヤブレーキ	ブレーキの効き、レバーの遊び、ブレーキ液量を点検し必要ならばリザーバータンクにフルードを追加して下さい。ブレーキフルードはFMVSS DOT 4をお使いください。	14,22,30,31
スロットル	機能に問題が無いか確認し、遊びの量や動きが悪い場合は調整及び給油をして下さい。	19,25
油脂類	オイルレベルゲージ等で油量を点検し、必要に応じて補充して下さい。	23,15
タイヤ	傷や異物が刺さっていた場合は取り除き、空気圧を点検し調整して下さい。	24,15
スイッチ/スピードメーター	各機能が正常に作動するか確認して下さい。	8
センサー/スタンド	機能に問題が無いか点検し、必要に応じて摺動部に給油して下さい。	-
サイボスタンド	機能に問題が無いか点検し、必要に応じて摺動部に給油して下さい。	-
各部締め付け	各部締め付けに緩みが無いか確認し、緩みがあった場合は締め付けて下さい。	-
燃料	残量を確認して必要ならば給油して下さい。	16,25
灯火類	全ての灯火が正常に点灯するか確認し、バルブ切れがあった場合は交換して下さい。	25

Note：運行前に必ず運行前点検を行って下さい。

上記点検は短時間で済み安全性を向上させる事が可能です、運行距離の長短に関わらず必ず実行しましょう。

ブレーキ

1. ブレーキレバー

ブレーキレバーの遊びが5～15mmある事を確認して下さい。

ブレーキレバーを握り正常に機能しているか確認して下さい。

安全な場所で低い速度でブレーキを掛けてブレーキの効きが正常か確認して下さい。

注意！ 握った感触が柔らかい場合はブレーキシステムに何らかの異常が発生しています。

何らかの異常を感じた場合は直ちに使用を中止して PGO 取扱店に点検を依頼して下さい。

2. ブレーキフルード

ハンドルを切り点検する方のブレーキオイルのリザーバータンクが水平になる様にして下さい、点検窓からブレーキフルードの量を確認し、MIN レベルよりも上まである事を確認して下さい。ブレーキフルードが少ない場合は FMVSS DOT 4 のブレーキフルードを補充して下さい。



3. ブレーキフルード漏れの有無

ブレーキシステムの各部からのブレーキフルードの漏れが発生していないか確認して下さい。ブレーキホースの繋ぎ目の部分やリザーバータンクの蓋部分等が発生しやすいので重点的に点検して下さい、ホースの亀裂等の有無も点検して下さい。

4. ブレーキディスク

タイヤを回してブレーキディスクに振れが無いか確認して下さい。

ディスク表面が波状に摩耗している場合は交換してください、またその場合はブレーキパッドも同時に交換して下さい。

注意！：ブレーキフルードの漏れやホースに亀裂、ディスクの振れ等の異常があった場合は直ちに車両の使用を中止して PGO 取扱店に修理を依頼して下さい。

ブレーキシステムは重要保安部品です、整備は有資格者にご依頼下さい。

スロットル

エンジンが掛かっていない状態で以下の点検を行って下さい。

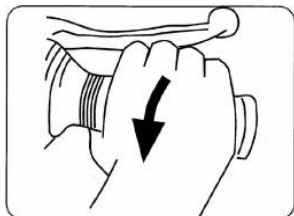
スロットルグリップをひねって操作に異常がないか確認して下さい。

スロットルの開け始めに1.5～3.5mm程度の遊びがある事を確認し、

万が一遊び量が適正でない場合は調整をして下さい。

スロットルを全開までひねった状態から手を離して全閉まですぐに閉じる事を確認して下さい。

途中で引っかかりや戻りが遅い場合は車両の使用はせずに PGO 取扱店に修理をご依頼下さい。



エンジンオイル

注意！：エンジンオイル量の点検は平坦で傾斜のない安定した場所で行って下さい。
走行後などのエンジンが十分に暖気された状態からエンジンを止めてオイルレベルゲージを抜いてゲージ部分に付着したオイルを拭き取ってください。

エンジン停止後2～3分経過後にオイルレベルゲージを突きあたるまでまっすぐに挿し込み(ねじ込まない事)すぐに抜き取りゲージ部分に付着したオイルでエンジンオイルレベルを測ってください。

全容量 1 0 0 0 c c

交換容量 8 0 0 c c

オイルレベルゲージのアップーレベルとローレベルの範囲内にオイル量があれば OK です。



タイヤ

タイヤの状態をこまめにチェックしてタイヤの性能を最大限に引き出すと共にタイヤの寿命を延ばし安全にお使い頂けます。

1. 空気圧 空気圧が適正かどうか運転前に点検して下さい。

適正空気圧(1名乗車時) フロントタイヤ：1.8～2.0 kg/cm²

リヤタイヤ : 1.8～2.0 kg/cm²

2. 傷及び異物の点検

タイヤにひびや傷等の損傷が無いか、また異物などが刺さっていないか確認して下さい。

3. タイヤ溝の深さ

タイヤ溝は一定以上の深さが必要です、規定値以下の浅さになると排水性の低下等を招き危険です。

タイヤ溝の深さ(使用限度値) 0.8mm以上

溝の浅いタイヤを使用するのは非常に危険です、早めにタイヤを同じサイズの物に交換して下さい。

フューエルタンク

燃料が十分にある事を確認して下さい。



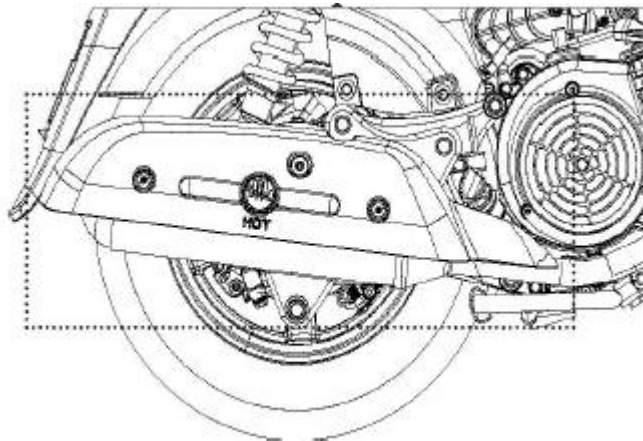
注意！：給油時にガソリンを溢れさせないように気を付けて下さい。

給油する時は給油ノズル先端以下までにして溢れないようにして下さい。

溢れたガソリンがマフラーに触れるとマフラー表面が高温の為発火してしまう危険性が有ります。

触媒

触媒は排気ガス中の有害物質を低減させる為の装置で、排気管内に設置されています。



1. 走行直後のマフラーは高温になり危険です、駐車する時は周りに燃えやすいものが無い事を確認し、なるべく歩行者などから遠ざけて駐車してください。
2. 燃料は必ず無鉛のガソリンを給油してください。
3. 走行中や空ぶかし直後にメインスイッチをオフにしないで下さい、未燃焼ガスが触媒を過度に加熱させ機能低下に繋がります。
4. 燃えやすい物の上での走行、駐停車はしないで下さい。
5. 常に良好なエンジン状態を保ち、異常燃焼により触媒に過度の熱を持たせないようにしてください。
6. 触媒が正常な作動を続ける為に、定期点検を心掛けてください。

乗車する際の注意事項

1. 乗車する前にすべての操作システム及び機能を把握してください。又、何らかの問題がある場合は PGO 取扱店にご相談下さい。
2. 締め切った場所でエンジンを掛けないで下さい。

乗車前にサイドスタンドを必ず確認して下さい、サイドスタンドを出したまま走行すると大変危険です。

エンジン始動

1. メインキーを "〇" の位置まで回してください。
2. メーター初期動作が終わるのを確認してから、スロットルグリップ全閉状態でブレーキレバーを握り、スタートボタンを 5 秒以内に押して下さい。



※ 注意！

エンジンが掛からない時でも、連続して 5 秒以上スタートボタンを押し続けしないで下さい、電気系統に過大な負荷が掛かり故障の原因になります。

後席乗員用 格納ステップ

後席乗員用のステップが装備されており、不使用時は格納する事が出来ます。

格納状態からは一度内側へ押し込んで『カチッ』と音がするまで押し込んでから手を離すと使用状態までスプリングの力で飛び出します。

使用状態からは格納状態まで押し込むと『カチッ』と音がする所で保持します、押し込み過ぎると再び飛び出してしまうので静かに一度目の音がしたところで手を離して下さい。

<注意>

運転者はこのステップを使用しないで下さい。

格納方向に力が加わると倒れるので注意してご使用下さい。



暖機運転

エンジン保護の為に運行前に1～3分程度アイドリングをしてエンジンを暖機して下さい。始動直後で暖まらないうちに負荷を掛けないようにして下さい。

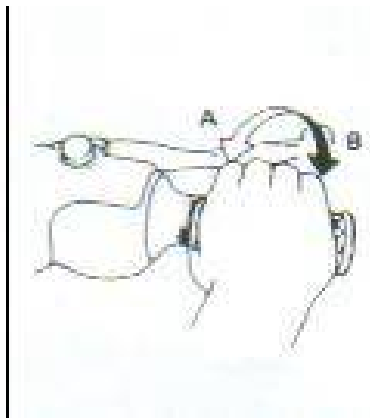
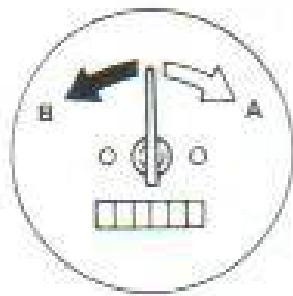
☆ 新車購入直後の場合は“エンジンの慣らし運転”のページをよく読み、まず慣らし運転を行って下さい。

スクーターに乗るにあたって（暖機終了後）

1. リヤブレーキを握ったままセンタースタンドを上げてください。
2. 正しい乗車姿勢でシートに座り、バックミラーを調節してください。
3. 周りの交通状況を確認後、発車の合図を出してから発車しましょう。
4. ゆっくりスロットルグリップを操作し、発車出来たら合図を戻しましょう。

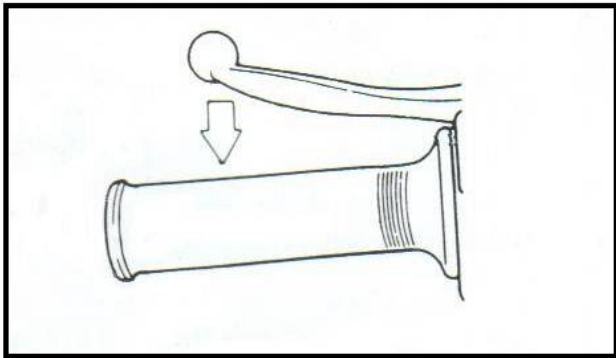
スロットル操作

スロットルグリップを手前に捻ると増速し、戻すと減速します。スムーズな操作を心掛けましょう。

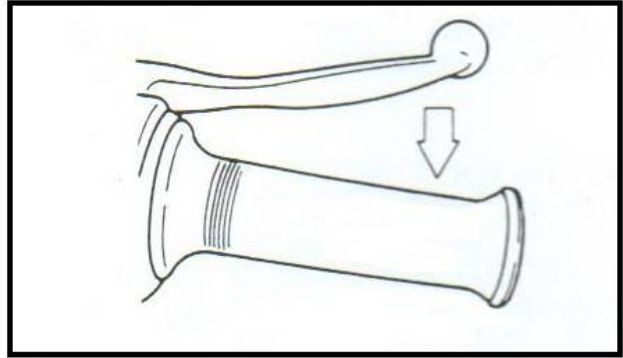


ブレーキ操作

1. スロットルグリップを戻して下さい。
2. 前後ブレーキをゆっくり握って下さい。



リヤブレーキ



フロントブレーキ

※ 注意！

1. 滑ったり、転ぶ恐れがあるので急ブレーキは避けて下さい。
2. 車体が傾いている時は特に注意して操作しましょう、不用意な操作は転倒等の原因になります。
3. 未舗装路やマンホール、濡れた路面等は滑りやすい為スピードを落としてください。
4. 濡れた路面や下り坂ではブレーキが効きづらくなります、余裕を持って減速して下さい。

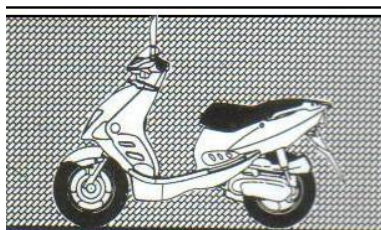
エンジンの慣らし運転

新車から 1,000 k m まではスクーターの寿命に一番影響する時です、1,000 k m を超えるまでは過大な負担を避け、出力の半分程度で走行しましょう。

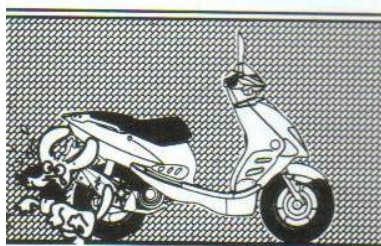
エンジン各部が適切なクリアランスを確保出来るように、過大な負担や急激な動作は避けましょう。

1. 0 ～ 1 5 0 k m スロットル開度は 1 / 2 以下にしてください。1 時間に 5 ～ 1 0 分程度エンジンを冷やすようにし同じ速度を長時間保持しないで、速度を変えながら走行します。
2. 1 5 0 ～ 5 0 0 k m 長時間スロットル開度 1 / 2 以上で保持しないで下さい。
※ 3 0 0 k m で一度エンジンオイルとオイルフィルターとギヤオイルを交換して下さい。
3. 5 0 0 ～ 1 , 0 0 0 k m スロットル開度 3 / 4 以下にしてください。
4. 1 , 0 0 0 k m 以上 長時間全開で走行しないようにして下さい。
※ 注意！ 慣らし運転中に何か問題が起きた場合、PGO 取扱店にご相談下さい。

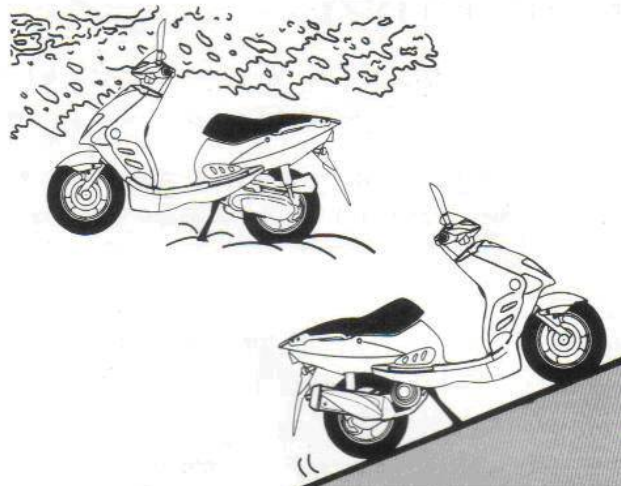
駐車



正しい止め方



誤った止め方



誤った止め方

※ 注意！ 走行直後はマフラーが非常に熱くなっている為、子供や歩行者から出来るだけ離して駐車して下さい。

坂道や地盤が不安定な場所は転倒する危険性がある為、駐車しないで下さい。

ラゲッジボックス

座席の下がラゲッジボックスになっています。

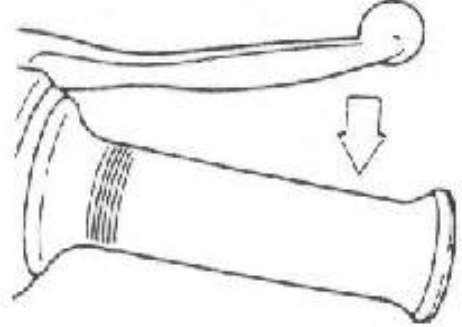
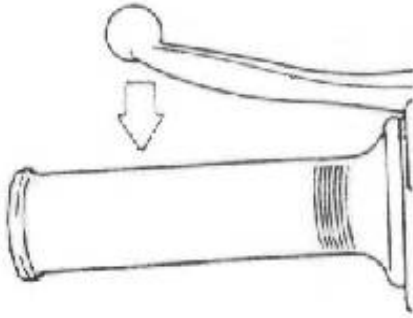


- ラゲッジボックス内の耐荷重は最大5 k g までです。
- 長時間エンジンが作動しているとラゲッジボックス内の温度が上がる事がありますのでご注意ください。
- 壊れやすい物や燃えやすい物、ラゲッジボックスを溶かすような溶剤等は入れないで下さい。
- 雨天や洗車などでボックス内に水が入る場合がありますので、防水性のある物で包むようにしてください。
- 車両から離れるときは必ずシートロックをご確認ください。
- ヘルメットはラゲッジスペースに収納できます。ラゲッジスペースに収まらない場合はシートヒンジの両脇にヘルメットホルダーが装備されていますのでヘルメットホルダーを使用して下さい。

※ヘルメット等を破損した場合、車両の保障では対応致しかねますので予めご了承下さい。

ブレーキ点検

1. ブレーキレバーには適切な遊びが必要です、約 5 ～ 15 mm 遊びがあることを確認し、少なすぎたり多すぎたりする場合は、最寄りの PGO 取扱店で点検を受けてください。
2. ブレーキを数回掛け、離れた時にホイールが軽く回るか点検してください。
回転が重い場合はブレーキパッドの戻りが悪い可能性がありますので、最寄りの PGO 取扱店で点検を受けてください。



フロントブレーキ

ハンドルを持ちレバーを握り機能していることを確認してください。
作動時に違和感がある場合は速やかに PGO 取扱店で点検を受けてください。

- * 運行前点検を怠ると何らかの不具合が生じる危険がありますので必ず点検を行い必要な修理、調整を毎日でも実行してください。

ブレーキフルード

ブレーキフルードの量はハンドルカバー横から覗き込むと点検窓により点検できます。

リザーバタンクを水平にしてから点検して下さい。

補充が必要な場合は FMVSS DOT 4

または SAE J1703 の物を補充してください。

また、ブレーキホースやホース接続部分等に於いて液漏れを発見した場合は絶対に運行せず。

速やかに PGO 取扱店で 点検・整備を受けてください。



ブレーキパッド

ブレーキフルードの減少及び握ったときの違和感はブレーキパッドが減ったことに起因する場合があります、速やかに PGO 取扱店で点検を受けてください。

- * ブレーキパッド交換は有資格者に委託してください。

エンジンオイル量点検

4T エンジン

- エンジンオイルは初回 3 0 0 k m で、その後 3 0 0 0 k m 毎に交換してください。
 - レベルゲージを使用する場合、必ずエンジン停止状態で行ってください。
 - オイルレベル点検は平坦な場所で暖気後 2 ～ 3 分経ってから行ってください。
 - オイルレベルゲージのロワレベル以下にならないようオイルを補充して下さい。
 - オイルは SAE10w40 をお使い下さい
- ※オイル交換推奨インジケータは 1, 0 0 0 k m 毎に点灯します、予めご了承下さい。



エアクリナー

エアクリナーは空気中の埃を取り除きエンジンの磨耗度合い軽減に重要な部品です。常に清潔であるようにあなた自身もしくは PGO 取扱店で定期的なメンテナンスを行ってください。



タイヤ

タイヤの性能を保持し磨耗を抑える為に以下の点に留意してください。

1. 空気圧

空気圧は基準値を守りましょう。

※ 空気圧の測定は走行前に行い、外気とタイヤ内空気の温度差が生じない状態で測定してください。また、外部からの圧力も正確な測定の妨げになります。

空気圧の基準値は 前輪：1.75kg/cm² 後輪：2.0～2.25kg/cm² です。



空気圧が高い場合



空気圧が低い場合

2. 簡単な点検

乗車前にタイヤの外観を点検し過度の磨耗や釘など刺さっていた場合は、速やかに PGO 取扱店で点検・整備を受けてください。

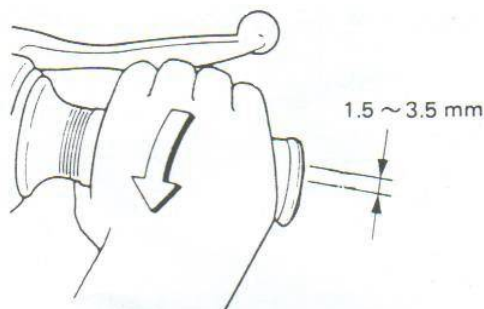
3. タイヤ溝の深さチェック

過度に磨耗したタイヤは大変危険です、溝の深さが十分ないと、泥や濡れた路面で顕著に滑ります。溝の深さを点検し0.8mm以下になったら速やかに交換しましょう。

スロットルグリップ

- スロットルグリップを操作し遊び量と作動状態を確認して下さい。
- 手を離れた時、速やかに元の位置へ戻るか確認して下さい。

調整方法は PGO 取扱店へお問い合わせ頂くか依頼して下さい。



灯火類

スイッチを操作し、すべてのランプ、バルブ、インジケーターが作動することを確認して下さい。

スイッチ類

スイッチを操作し、作動を確認して下さい。

※ヘッドライトスイッチは日本仕様の為、機能せず常時点灯します。

燃料

燃料が十分にあるか確認して下さい。

タンク容量は 5.5 L です。

※ 注意！

1. 燃料は無鉛ガソリンを使用して下さい。
2. 給油口の細くなっている部分までガソリンを満たさないで下さい、あふれてしまう危険性が有ります。

定期点検

性能を維持し安全に運転をする為に、定期点検を励行し定められた期間に点検、調整潤滑油の補充・交換を行って下さい。

安全運転は運転者の義務です、メンテナンスと油脂類の補充は常に意識し、偶発的な事故以外の重要な予防措置と認識ください。

＊注意！ 舗装路の走行を目的にデザインされていますので、悪路や濡れた

路面を走行する時は、エンジンの消耗が早まるのでエアクリナーを頻繁に掃除して下さい。

点検や整備についてご不明な点がある時は、PGO 取扱店へお尋ね下さい。

定期点検スケジュール

項目	内容	定期点検と走行距離による点検						
定期点検月		1	3	6	9	1 2	1 5	1 8
走行距離		300	3000	5000	8000	10000	13000	15000
エンジンオイル*	交換（800cc） 全容量（1000cc）	○	3000 k m毎に交換。					
オイル ストレーナー*	清掃又は交換	○	3000 k m毎に清掃又は交換					
エアクリナー	清掃又は交換		○	○	○	○	○	○
ギヤオイル*	交換（90cc） 全容量（110cc）	○	○		○		○	
ブレーキ	作動と液漏れ点検		○	○	○	○	○	○
クラッチシュー*	点検又は交換		○	○	○	○	○	○
タイヤ	磨耗点検又は交換		○	○	○	○	○	○
車軸*	点検・増し締め		○	○	○	○	○	○
F フォーク*	機構及び液漏れ点検	○	○	○	○	○	○	○
ステムベアリン*	ガタ点検・増し締め			○		○		○

“*” マークの項目は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

項目	内容	定期点検と走行距離による点検						
定期点検月		1	3	6	9	1 2	1 5	1 8
走行距離		300	3000	5000	8000	10000	13000	15000
サスペンション*	作動と液漏れ点検	○	○		○		○	
メイン・サイド スタンド	作動点検又は交換	○	○	○	○	○	○	○
各ボルトナット	緩み点検・増し締め	○	○	○	○	○	○	○
バッテリー	電圧点検・電極清掃		○	○	○	○	○	○
バルブ クリアランス*	冷間時に測定する IN0.10EX0.12mm	必要であれば調整する。						
スパークプラグ*	清掃又は交換			○		○		○
V ベルト*	磨耗点検又は交換			○	A	○	A	○
フュエルフィーデ ィングシステム*	ホースのヒビとブ ロックの点検			○		○		○
アイドル回転数*	1650±100rpm	○	○	○	○	○	○	○

“*” マークの項目は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

“A” マークの項目はエンジン性能が著しく低下している場合、点検又は交換して下さい。

※ エンジン保護の為に新車から 300 k m 走行時にエンジンオイル・オイル
フィルター・オイルストレーナー清掃・ギヤオイル交換を行って下さい。

※ ブレーキフルード交換

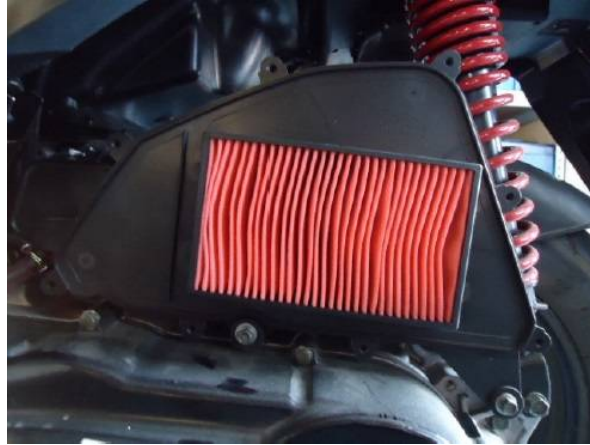
1. マスターシリンダー分解や、キャリパー分解時には新しいフルードを補充して下さい
2. 油量はこまめに点検して下さい。
3. マスターシリンダーとキャリパーは 2 年毎に交換して下さい。
4. ブレーキホースは 4 年毎に交換して下さい。

エキゾーストコントロールシステムのメンテナンス（触媒装着車）

1. 触媒は、燃料・イグニッション・インテーク／エキゾーストシステムを定期的にメンテナンスすることによって、触媒のメンテナンスとなります。
2. エアクリーナーを点検（23・29ページ参照）
3. スパークプラグの点検（29ページ参照）
4. 燃料システムの点検： フューエルパイプのひび、漏れの点検又は交換。
5. マフラー点検： 排気漏れを点検、必要ならばガスケット交換。
6. アイドリング点検

もしも不安定な場合は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

エアクリナー



4T エンジン

エアクリナー点検時にエアクリナーボックス内に多くホコリの蓄積が認められるような場合はエンジン出力の低下と燃料消費増大に原因があると考えられます、こまめに点検、清掃を行いましょう。

1. エアクリナーカバーを外す。
2. エアクリナーエレメントを外す。
3. 圧縮空気で汚れを吹き飛ばして清掃し、必要ならば交換する。
4. エアクリナーエレメントを元の位置に戻し、カバーを隙間が開かないように気を付けて取り付ける。

※ 注意！ エアクリナー分解中にエンジンを掛けないで下さい、ホコリ等がエンジンに吸い込まれ内部を傷付ける恐れがあります。

プラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつです。プラグの状態でエンジンの燃焼状態を知ることが出来ます、プラグの焼け色が薄茶色であればエンジンが良好な燃焼状態であることを表します。もし問題があれば PGO 取扱店にご相談下さい。

時間の経過と共に熱やホコリで腐食したり焼け焦げたりするので、ある一定期間で新しい物と交換して下さい。

純正指定プラグ： **CR8E** (NGK) プラグギャップ 0.6～0.7mm

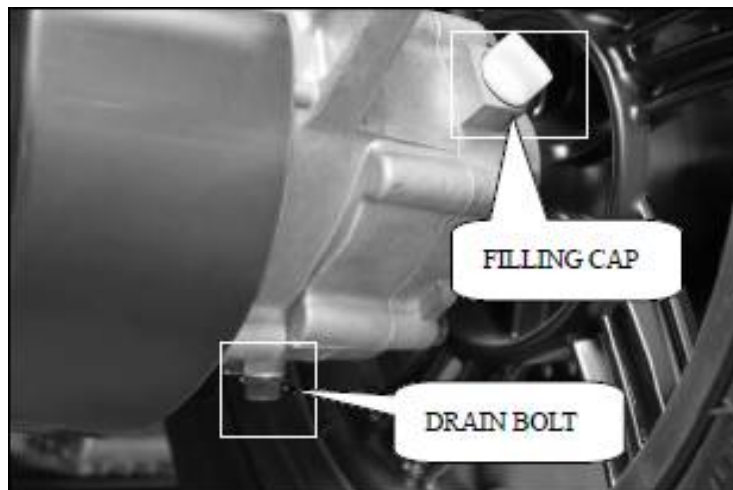
点検後は取り付ける前にねじ部とワッシャー部をきれいにしてから取り付けてください。

締め付けトルク： 1.2kg-m

もしトルクレンチが無い時は、手で回るところまでねじ込み、そこから $1/4 \sim 1/2$ 回転締め付け、後ほどトルクレンチを使用して指定トルクで締め付けを行って下さい。

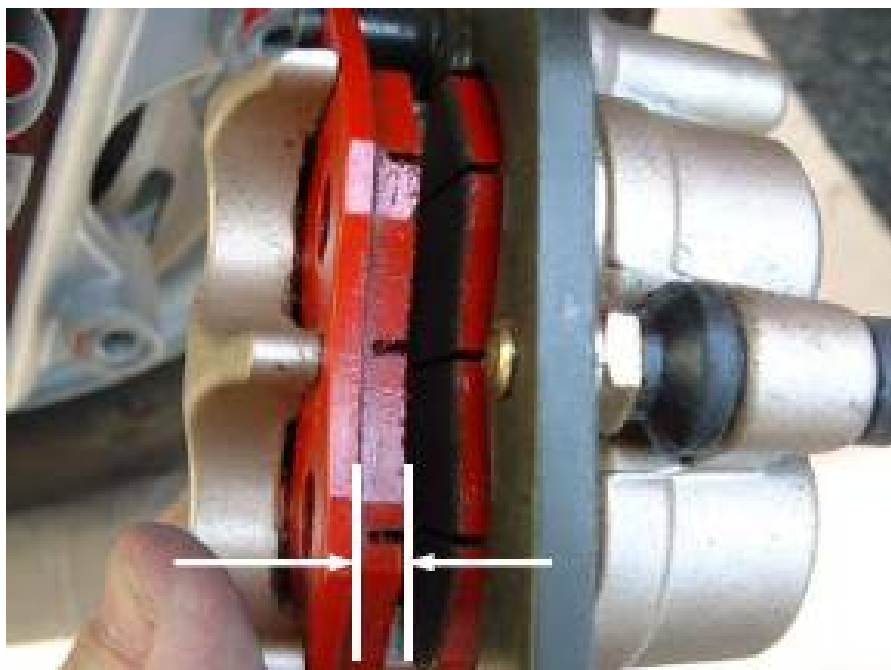
ギヤオイル交換

- 初回は 300 k m で、その後は 3000 k m ～ 6000 k m ごとに交換して下さい。
- 交換時容量：90 c c SAE140 全容量：110 c c



フロントブレーキ点検

フロントブレーキパッドの残量はパッドの溝の深さを見る事により点検することができます。パッドにある溝が無くなった時が使用限度です。



※ リヤブレーキも同様に点検を行って下さい。

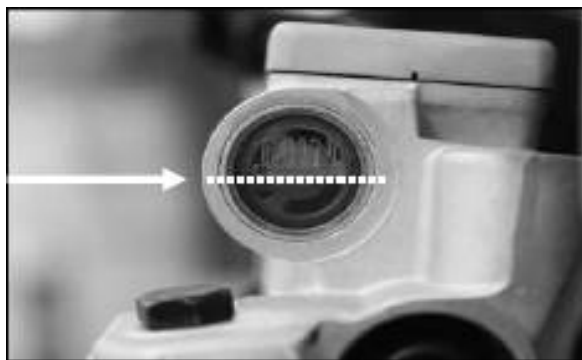
ブレーキフルード点検

リザーバタンク内のフルード液量が少ないとブレーキ液に空気が入る原因になります。ブレーキ液に空気が混入すると油圧が伝わりにくくなり制動力が著しく低下し危険です、こまめに液量を点検して下さい。

1. 液量点検時はリザーバタンクが水平になるようにハンドルを切ってください。
2. ブレーキフルードは必ず指定の規格品を使用して下さい、それ以外の使用はシール類を痛め液漏れの原因になります。

純正指定規格： FMVSS DOT4or SAE J1703

3. 補充するフルードは同じ種類の物を使用してください、混ぜる事は避けてください。
4. マスターシリンダー内に水が入らないようご注意下さい、水が混ざるとフルードの沸点が下がり、フルード内に気泡を生じさせ大変危険です。
5. フルードは塗装面を侵食します、こぼしてしまった時は直ちに拭き取り水拭きして下さい。
6. ブレーキの整備は資格を持つ整備士に依頼して下さい。



サスペンション点検

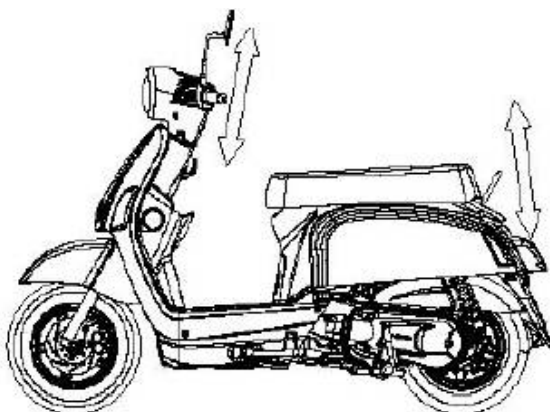
※ 注意！ アクシデント回避の為に、日常点検を励行して下さい。

1. 目視による点検

インナーパイプの傷、損傷、オイル漏れを点検する。

2. 作動点検

車輛を平坦な場所でハンドルを持ちフロントブレーキを掛けたまま前後にゆすり、サスペンションの作動を点検する。



ヒューズ

1. ヒューズはシート下のバッテリーボックスのフタを外し、右ボディーカバー内側のフレームとバッテリーの間に設置しています。
2. ヒューズのアンペア表示が貼ってあるフタを開けると中にヒューズが有りますので外して点検して下さい。
3. ヒューズが断線している場合はメインスイッチを **OFF** にして、ヒューズが切れた原因を解消してからヒューズを交換して下さい。もしヒューズ交換後メインスイッチをオンにして再びヒューズが断線する場合は **PGO 取扱店**にご相談ください。



※ 注意！ ヒューズの定格アンペアより大きいアンペアのヒューズを使用しないで下さい。
定格アンペア以上のヒューズを使うと配線に強いダメージを与え、発火の原因となり大変危険です、必ず正しいアンペア数のヒューズをお取り付け下さい。

バッテリー

バッテリーはメンテナンスフリータイプなので液量の点検及び補充は必要ありません。
万一バッテリー液が漏れている場合は、至急使用を中止して **PGO 取扱店**にご相談下さい。

※ 注意！

バッテリー上面のシール（ふた）を取る事は絶対にしないで下さい、バッテリーを損傷させる恐れがあります。



主要緒元表

車名			PGO					
形式			J3-125BAE/BIE		サスペンション		フロント	テレスコピック
外形寸法	全長		1720 mm				リア	ユニアブソーバー
	全幅		710 mm		トランスミッション	1次減速比		0.75~2.6
	全高		1060 mm			2次減速比		47/17*47/15=8.66
	車軸間距離		1215 mm			クラッチ		遠心式
				変速機		C.V.T式		
重量	車体重量	前輪	41 kg		タイヤ	フロント		90/90-10
		後輪	62KG			リア		90/90-10
		合計	103 KG					
	乗車人員		2 (150 kg)		ブレーキ	フロント		DISK
	総重量	前輪	83 kg			リア		DISK
		後輪	170 kg			スピードメーター		140 km/hr
			253 kg		ライト	ヘッドランプ		12V 60/55W
	フレーム		スチールパイプ			テールランプ		12V-0.2W/12V-5W
燃料供給方式		電子制御インジェクション		ブレーキランプ		12V-2W		
バッテリー		YTX7A-BS/TTZ10S				ウィンカーランプ		12V-2W/12V-2W
エンジン	型式		J1		HORN		DC 12V	
	燃料		無鉛ガソリン		マフラー		C-D ABSORPTION	
	サイクル/冷却方式		4ストローク/空・油冷併用式		排気方式		右後方排気	
	シリンダー	ボア	φ54 mm		潤滑方式		圧送飛沫式	
		ストローク	54.5 mm		始動方式		セルフ式	
		気筒数	SINGLE		点火方式		トランジスター式	
	排気量		124.8c.c.		燃料タンク容量		5.5L	
	圧縮比		10.1 : 1		触媒		装備	
	最大出力		8.0kW/8250rpm					
	最大トルク		9.5N-m/6750rpm					
	エンジン様式		ホリゾンタル					

* バッテリーについてアイドルストップ付きが TTZ10S で、無しが YTX 7 A-BS となります。

定期点検記録簿

計画 Km	実行 Km	日付	販売店サイン
3 0 0			
1, 0 0 0			
2, 0 0 0			
3, 0 0 0			
4, 0 0 0			
5, 0 0 0			
6, 0 0 0			
7, 0 0 0			
8, 0 0 0			
9, 0 0 0			
1 0, 0 0 0			
1 1, 0 0 0			
1 2, 0 0 0			
1 3, 0 0 0			
1 4, 0 0 0			
1 5, 0 0 0			
1 6, 0 0 0			
1 7, 0 0 0			
1 8, 0 0 0			
1 9, 0 0 0			
2 0, 0 0 0			
2 1, 0 0 0			
2 2, 0 0 0			
2 3, 0 0 0			
2 4, 0 0 0			
2 5, 0 0 0			

保 証 書

お買上げ頂いたお車を構成する各部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、この保証書に示す期間と条件に従って、下記の保証修理を致します。

一. 保証範囲：

1. 保証内容 お車を取扱説明書に従った整備をおこない正常に使われている上で万一、部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、無料修理いたします。（保証修理は部品の交換もあります）（以下この無料修理を保証修理といいます）。 尚、取外した部品は弊社の所有となります。
2. 保証期間 新車を登録または届出した日から 1 年間もしくは走行距離 15,000 km までのいずれか早い方までが保証期間となります。
3. 保証対象 PGO 日本代理店：（有）ナーベルフォースが販売する PGO ブランドスクーターで、販売店が（有）ナーベルフォースにユーザー登録を行っている車両。

二. 保証修理の受け方：

保証修理をお受けになる場合は、お車とこの保証書をお買上げの販売店へお持ち下さい。これにより保証修理を致します。※提示されない場合は、保証修理をいたしかねます。

三. 保証できない事項：

1. 次に示す事項は保証修理いたしません。
 - (1) 時の経過で発生する不具合（塗装面等の自然退色、メッキ面などのさび、消耗品の劣化等）
 - (2) 機能上影響のない感覚的現象（音、振動、オイルのにじみなど）
 - (3) 地震・台風・水害等の天災・事故・火災に起因する不具合
 - (4) 純正部品及び指定する油脂類（オイル・ブレーキ液・冷却液等）以外の使用に起因する不具合。
 - (5) 煤煙・薬品・鳥糞・塩害等に起因する不具合
 - (6) レース・ラリーなどによる酷使或は一般に車輛が走行しない場所での走行に起因する不具合。
 - (7) 法令に違反する改造及び弊社の認めていない改造に起因する不具合
 - (8) 盗難にあったお車 (9) 無免許運転に起因する不具合
 - (10) 保管又は整備不良に起因する人為的な不具合
2. 次に示す費用は負担いたしません
 - (1) 消耗部品の費用（ライト類・ゴム類・ワイヤー類・ネジ類・ピストン・スパークプラグ・ワッシャー類・ブレーキパット・ブレーキライニング・V型ベルト・ヒューズ・など）
 - (2) 油脂類・燃料・バッテリー液などの交換補充の費用
 - (3) お車を使用出来なかった事による不便さ及び損失など（電話代・レンタカー代・休業補償・営業損失等）
 - (4) 車輛修理に伴うレッカー代
 - (5) PGO 純正部品であっても本来使われている部品以外の転用も改造になり補償対象から外れます

四. 保証修理をお受けできない事項

1. 法令及び取扱説明書に示す取扱方法と異なる使用方法及び弊社が示す仕様の限度（最大積載量・乗車定員）をこえて使用した場合
2. 下記の点検整備を実施していなかった場合
 - (1) 乗車前の点検
 - (2) 弊社の指定する定期点検
3. 定期点検整備記録簿を保持していなかった場合
 - (1) 定期点検整備記録簿を大事に保管してください

五. 保証の発効

この保証書は、お買上げ頂いた正規販売店が保証登録書に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

六. 保証の継承

保証期間が残っているお車をお買上げの際は、ご購入後、直ちに正規販売店へお車と保証書をお持ちになり、名義の書換え、必要な点検（有料）と必要事項の記入、捺印をお受け下さい。これにより残りの期間を保証いたします。

七. 保証の適用

この保証書は、日本国内で販売し使用されることを前提としております。従って海外へ持出す場合は、その時点で保証が打切りとなりますのでご注意ください。

- ＊ この保証書は、本書に明示された期間と条件をもとに無料保証をお約束するものです。この範疇を超えたものに関しては、原則として有償となります。

PGO SCOOTER 日本代理店
有限会社 ナーベルフォース
埼玉県戸田市美女木 7-15-6
TEL : 048-449-0021 FAX : 048-449-0022